

運動会の意義

校長 相川 保 敏



今年度の運動会は、ここ数年のような雨の心配もなく、予定通り実施することができました。保護者の皆様には、早朝から長時間にわたり、子どもたちへの温かな声援をいただき、ありがとうございました。また、PTAの皆様やパパ会をはじめとする有志の皆様にも、受付から後片付けまで多大なご協力をいただきました。皆様のお支えがあってこそ、安心・安全な運動会を行うことができました。心より感謝申し上げます。

さて、当日は気温が30度近くまで上がる予報もあったためプログラムを一部入れ替えて実施しましたが、思いのほか風があり熱中症指数も上がり、予定していた種目を全て行うことができました。各学年とも、表現運動・徒競走・競争競技に精いっぱい取り組みました。子どもたちは真剣な表情で踊り、走り、仲間に声援を送っていました。勝敗だけでなく、最後まであきらめずにやり抜こうとする姿や、友達のがんばりに拍手を送る姿も多く見られ、運動会のもつ大きな魅力をあらためて感じる一日となりました。

さて、当日は気温が30度近くまで上がる予報もあったためプログラムを一部入れ替えて実施しましたが、思いのほか風があり熱中症指数も上がり、予定していた種目を全て行うことができました。各学年とも、表現運動・徒競走・競争競技に精いっぱい取り組みました。子どもたちは真剣な表情で踊り、走り、仲間に声援を送っていました。勝敗だけでなく、最後まであきらめずにやり抜こうとする姿や、友達のがんばりに拍手を送る姿も多く見られ、運動会のもつ大きな魅力をあらためて感じる一日となりました。

運動会は、現在の小学校学習指導要領において教科「体育」そのものではなく、特別活動の「学校行事」の中の「健康安全・体育的行事」に位置づけられています。そこでは、健康や安全への関心を高めること、規律ある集団行動を身に付けること、運動に親しむ態度を育てること、そして責任感や連帯感、体力の向上を図ることが大切とされています。運動会は、単に競技を行う日ではなく、子どもたちが協力し合いながら、心と体の成長を学ぶ教育活動といえます。

そもそも、運動会は明治時代に近代的な学校制度が始まるのとともに広まりました。学校が、知識だけでなく、身体や規律、集団生活も育てる場と考え

られていたためです。初代文相・森有礼が、体育による集団訓練の成果を示す場として運動会を奨励したことも、その広がり大きく関わったとされています。こうした歴史を振り返ると、運動会は昔も今も、身体づくりと集団づくりを同時に進めることのできる大切な学校行事であることが分かります。

また、種目について目を向けてみると、「徒競走」は綱引き・旗取りなどとともに明治期から続く伝統的な種目です。一方、「玉入れ」のような遊戯的・娯楽的な団体種目が主流になるのは大正時代です。明治期の小学校運動会では、兵式体操や旗取り、綱引きなど訓練的な種目が中心でしたが、大正時代に入ると、遊戯や競争競技、棒倒し、騎馬戦などの娯楽的な種目が盛んになっていったそうです。つまり、現在の学年ごとの競争種目に近い形が前面に出てくるのは、この時期といえます。「表現運動」も大正期に広がり、昭和初期にははっきりと定着していたと考えられます。女子が校庭でダンスを踊っている記録も残っており、現在の「表現」種目の原型はこの時期につくられたといえます。このように、現在の運動会の形がつくられたのは大正時代から昭和初期であると考え、その長い歴史に驚かされます。

一方で近年、運動会は少しずつ様変わりをしています。組体操や騎馬戦、棒倒しのように練習時間が多く、安全面の配慮が必要な種目は減少し、授業とのつながりや暑さ対策、指導時間を考慮した内容へと変化しています。多くの学校では、こうした指導時間の軽減や熱中症対策のため三種目ではなく、徒競走に加えて「競争競技」か「表現運動」のどちらか一つを選んで実施するようになってきています。

本校でも、暑さ対策は毎年の大きな課題です。今年度は運よく、全てのプログラムを実施できましたが、従来のように全校児童が他学年の競技をすべて観て応援する形は難しくなっています。どのような形が望ましいのか、今後も子どもたちの安全と学びの充実を第一に、運動会の実施時期やプログラム内容について検討を重ねてまいります。